

(公財) 地震予知総合研究振興会
長岡平野西縁断層帯の活動性評価に関する研究委員会 (第10回)

概要報告

1. 日 時 平成26年10月6日(月) 13:30~16:30

2. 出席者

委員	産業技術総合研究所		阿部 信太郎
	東京大学地震研究所	教授	岩崎 貴哉
	東北大学	准教授	岡田 知己
	防災科学技術研究所		岡田 義光
	東京大学	名誉教授	金沢 敏彦
	日本大学総合科学研究所	教授	工藤 一嘉
	東京大学地震研究所	准教授	酒井 慎一
	東京大学地震研究所	教授	佐藤 比呂志
	防災科学技術研究所		関口 渉次
	東京大学地震研究所	教授	平田 直
	株式会社ホームサイスマメータ		堀内 茂木
顧問	東北大学	名誉教授	大竹 政和
	(公財) 地震予知総合研究振興会会長		高木 章雄
事務局	(公財) 地震予知総合研究振興会		

(敬称略)

3. 議第

- (1) 平成26年度上半期の活動報告
- (2) 人間以上に高精度の地震波自動読み取りシステムの開発
- (3) 日本海の活断層の地域的特徴と課題

4. 委員会の状況

平成26年度上半期の活動報告として①地震活動状況等について、②GPS観測結果等について説明があったのち、観測データの利用法、大地震時の地盤変状等の幅広い分野における最新の調査研究について話題提供があった。

(1) 平成26年度上半期の活動報告

平成26年度上半期の活動報告が行われた。

① 本検討で整備した稠密地震観測網（AN-net）の維持管理状況および地震活動状況の説明が行われ、委員会では、トモグラフィ解析結果と震源分布の関係、気象庁による一元化震源との比較等について意見交換が行われた。特に、トモグラフィ解析において、解析上評価できている箇所あるいは評価できていない箇所を確認し、明示するように意見があった。

② GPS観測結果等について、観測網の維持管理状況、データ処理の状況について説明がなされた。

(2) 人間以上に高精度の地震波自動読み取りシステムの開発

観測データの利用法の最新動向として、読み取りシステムの改良について紹介された。稠密地震観測などにおける大量のデータを処理するには、P波・S波の到達時間を自動処理により読み取る必要がありシステムを開発してきたが、ノイズやS波をP波と間違える等により間違った震源決定を行うケースがあったため、その改良点について紹介があった。

(3) 日本海の活断層の地域的特徴と課題

最新の調査研究に関する話題として、日本海の活断層の地域的特徴と課題について紹介があった。日本海沿岸域において実施した反射探査の解釈にもとづくと、地域的に、北海道西方沖の日本海東縁部、東北日本西方沖の日本海東縁南部、富山湾～若狭湾の日本海中部、丹後半島以西の日本海西部に区分できるとされている。委員会では、微小地震などの地震活動との関係性等について意見交換が行われた。

以上